



令和7年度 診療科・部門のご案内

- 挨拶 院長 松岡雅雄
- 副院長／院長補佐／医局長 紹介

呼吸器内科／消化器内科／脳神経内科／糖尿病・代謝内科／循環器内科／循環器足壊疽外来／血管内科／血液内科／腎臓内科／アレルギー外来／脳神経外科／心臓血管外科／形成外科／呼吸器外科／消化器外科／一般外科／乳腺外科／整形外科／小児外科／移植外科／小児科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／耳鼻咽喉科／眼科／リハビリテーション科／放射線科／麻酔科／リウマチ内科／リウマチ・膠原病内科／病理診断科／歯科口腔外科／臨床研修医／看護部／薬剤部／中央放射線部／中央検査部／中央リハビリテーション部／中央臨床工学部／栄養管理部・栄養管理室／地域医療連携部・地域医療連携室



ご挨拶

院長 まつおか まさお

2025年度を迎え、皆様にご挨拶申し上げます。

近年、日本における少子高齢化は予測を上回る速さで進行しており、高校・大学入学者の減少、各種学校の閉校や医療機関の閉院といった事態を目の当たりにするにつれ、その深刻さを改めて痛感しております。高齢化に伴い疾病構造も変化しており、胃がんが激減する一方で大腸がんは増加傾向にあります。また、新型コロナウイルス感染症の流行は人々の受療行動にも大きな変化をもたらし、入院患者数の減少が見られます。これは、皆様の健康維持への意識の高まりに加え、医療技術の進歩により、より低侵襲な外来治療が選択可能になったことも要因と考えられます。入院期間の短縮は患者サイドにとって喜ばしいことではあります、従来の病床稼働率に依存した医療体制から、時代の変化に対応した新たな医療体制への再構築が急務となっております。

このような状況を踏まえ、熊本労災病院では、地域の皆様へ最先端の医療を提供するため、積極的に低侵襲治療を導入しております。具体的には、

1. 早期乳癌に対するラジオ波焼灼治療を本年4月より開始いたしました。乳房を切らずに治療できるため、患者様の負担軽減と整容性の維持に貢献できると期待されます。県内では熊本大学病院に次ぐ導入となります。
2. 国産の手術支援ロボット「ヒノトリ」を導入し、4月より大腸がん手術、7月より前立腺がん手術を開始いたしました。既に7月末現在で、大腸がん手術12例、前立腺がん手術3例の手術を実施し、良好な治療結果を得ております。今後は、肺がんに対するロボット支援手術も開始する予定です。
3. 不整脈治療のアブレーションにおいては、より安全で患者様の負担が少ないパルスフィールドアブレーションを導入いたしました。
4. 心房細動に伴う血栓症予防として、抗凝固薬による治療に加え、カテーテルを用いて左心耳を閉鎖するWatchman手術を開始いたしました。

これらの最新治療法の導入により、地域住民の皆様の健康維持に貢献してまいります。また、昨年度より建設を進めております高度医療・災害対応棟は、建物の全貌が見えるほど工事が進捗しております。完成後は、最新の手術室、ICU、リハビリテーション室が整備され、高度な医療を提供できる体制が整うだけでなく、災害時にはDMATの活動拠点や避難場所としての役割も担います。日奈久断層を抱える八代地域において、この高度医療・災害対応棟は、市民そして医療関係者の皆様に安全・安心な医療を提供し、災害対応においても重要な役割を果たすものと確信しております。

急速な少子高齢化と医療従事者の不足に対応するためには、医療機関同士の密接な連携が不可欠です。急性期、回復期、慢性期、そして在宅医療を担う各医療機関との信頼関係をより一層深め、地域住民の皆様の健康を守り抜く所存です。今後とも、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。

患者の権利

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。また、分からぬことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方針を自分で選ぶことができます。また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます。(セカンドオピニオン)
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正統な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きを則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めるることができます。

患者の責務

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

子どもの権利

熊本労災病院では、公益社団法人日本小児科学会が策定した「医療における子どもの憲章」に基づいて、小児患者さんの権利を確認し尊重します。(公益社団法人日本小児科学会)

- 1 人として大切にされ、自分らしく生きる権利
- 2 子どもにとって一番よいこと(子どもの最善の利益)を考えもらう権利
- 3 安心・安全な環境で生活する権利
- 4 病院などで親や大切な人といっしょにいる権利
- 5 必要なことを教えてもらい、自分の気持ち・希望・意見を伝える権利
- 6 希望どおりにならなかったときに理由を説明してもらう権利
- 7 差別されず、こころやからだを傷つけられない権利
- 8 自分のことを勝手にだれかに言われない権利
- 9 病気のときも遊んだり勉強したりする権利
- 10 訓練を受けた専門的なスタッフから治療とケアを受ける権利
- 11 今だけではなく将来も続けて医療やケアを受ける権利



幹部紹介

副院長



いけ だ たか し
池田 天史

(兼脊椎センター長)
(医事業務、救急・災害医療、機器整備、施設基準、施設設備改築、医師事務作業補助者等人事管理等担当)



まつ むら とし ゆき
松村 敏幸

(兼医療安全管理室長) (兼治療就労両立支援部長) (兼労災疾病研究室長) (兼臨床研修センター長) (兼脳卒中・心臓病等総合支援センター長)
(医療安全、倫理、教育研修、労災疾病、広報誌編集等担当)



もり やま しゅう じ
森山 周二

(兼心臓血管外科部長) (兼心臓血管センター長) (兼地域医療連携部長)
(地域連携、薬事、治験等担当)

院長補佐



かね こ けん ご
金子 健吾

内科部長
糖尿病・代謝内科部長
(兼栄養管理部長)



いい ざか まさ よし
飯坂 正義

一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)



あら き ゆう し
荒木 裕至

放射線科部長
(兼中央診療部統括部長)
(兼医療情報部長)



はやし ひろ のり
林 裕倫

乳腺外科部長
(兼がん総合診療センター長)
(兼乳腺センター長)



ます だ まさ こ
増田 聖子

耳鼻咽喉科部長



やま ね ひろ み
山根 宏美

第二呼吸器内科部長

医局長



ど い ひ で き
土井 英樹

循環器内科部長
(兼血管内科部長)

呼吸器内科

あん どう まこと
安道 誠

呼吸器内科部長

(兼感染制御部長) (兼アスベスト疾患センター長)

日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、BLS/ACLS instructor、JMECC instructor

やま ね ひろ み
山根 宏美

院長補佐 第二呼吸器内科部長

日本呼吸器学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医

き むら とし き
木村 俊貴まる やま ひろ たか
丸山 広高

腫瘍内科部長

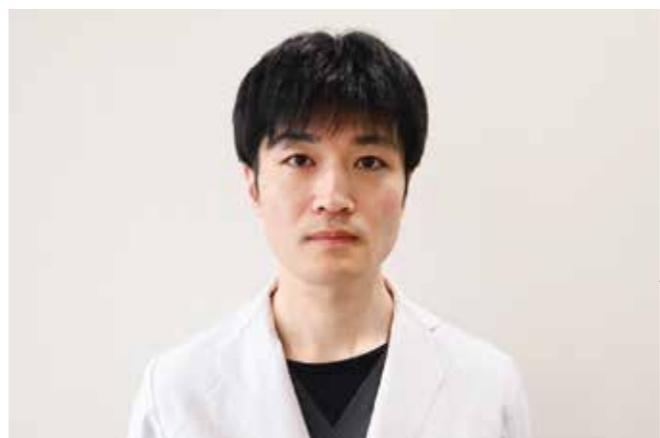
(兼がん総合診療センター長)

(兼化学療法副センター長)

日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本がん治療認定医機械日本がん認定医

いずみ ひろ き
泉 拓希

呼吸器内科医師

ご え ぶ ち か げ あ き
五江渕 景明

呼吸器内科医師

た な か ま な み
田中 愛美

呼吸器内科医師

4月から木村俊貴医師、泉拓希医師、五江渕景明医師、田中愛美医師が着任し、7名体制で診療を行っています。熊本県南呼吸器内科の拠点病院として、入院患者数は2001年度403名から2023年度1207名と約3倍に増加しています。呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般と不明熱やその他の感染症疾患など、地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。高齢化社会を反映して高齢者の嚥下性肺炎の救急受診が多くを占め、経口摂取の可否に関しては、耳鼻咽喉科での嚥下評価、S-Tによる嚥下リハビリを共同して行っています。肺癌は手術非適応例でも化学療法の進歩で延命効果も高くなり、入院から外来に移行しての化学療法も積極的に行っています。呼吸器外科も常勤体制で肺癌だけでなく、膿胸、気胸など協力して診療に当たっています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患の入院は、感染合併による急性増悪が殆どで救急受診や他院からの紹介入院です。間質性肺疾患はさまざまな原因から生じる疾患であり専門的な管理を要しますが、そのうち膠原病など全身性疾患による間質性肺疾患は膠原病内科との連携をとりながら管理を行っています。近年注目されている非結核性抗酸菌症は有病率、罹患率とも増加傾向にある感染症として知られ、当院外来でも患者数が増えてきている印象があります。また、2016年の熊本地震において閉鎖した八代市立病院に代わって、2019年12月当院に結核患者収容モデル事業に基づいた前室付きの陰圧室2床が完成し肺結核や新型コロナ感染症などの収容が可能となりました。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助などを行っています。

消化器内科

当科は、2年間在籍してくれた富口純先生と、6年間在籍してくれた米田暁先生が異動になり、昨年カナダに移住された日隈ゆかり先生にかわり、今年度からベテランの小森田先生と、若い犬童先生と小山田先生を迎えることができ、千代永先生、山岡先生、安倍先生と私の7人体制に戻りました。私はこの3月で定年を迎ましたが、ハ代が大好きで自宅もこの地にあり、赴任して24年間ずっと診て来た患者様も多く、また消化器内科医として育てて頂いた当院に恩返しがしたく、当分はこのまま労災病院で仕事を続けようと思っています。

上下部消化管は、潰瘍止血術、ポリペクトミー・ESDはもちろん、イレウス管留置、消化管閉塞に対するステント留置、食道胃静脈瘤治療、胃ろう増設・交換、小腸内視鏡、カプセル内視鏡、CTコロノグラフィーなど、ほぼ全ての疾患の診断と治療を行っています。

千代永先生は胆脾が専門であり、胆脾腫瘍や結石の紹介も多く、緊急性の高い場合が多いため、週末も含めほぼ毎日のように夜遅くまでERCPや超音波内視鏡を用いた診断や、胆道結石採石や胆道ステント留置を行っています。

私は特に肝臓疾患が多く、インターフェロンの時代から診ているC型肝炎治癒後や核酸アノログ治療中のB型肝炎の患者様は、10年、20年以上フォローアップしている方も多数おられます。その間肝炎関連以外の疾患を早期で発見する場合も多く、最近では肝炎治癒数年後の定期エコー検査中、早期肝癌を発見して治療切除できた患者様が2例あり、「治療が済んだら終わり」ではなく半年・1年ごとでもずっと診ていく重要性を痛感しています。肝癌治療もラジオ波焼灼は内科でも全身麻酔で行いますが、開腹下で行う場合は外科と一緒に治療に当たります。

消化器内科疾患は、消化器外科と一緒に最善の治療を考えていく事が必要な事も多く、毎週行っている「合同カンファレンス」は手術検討相談だけでなく、術後の手術報告や病理結果報告、放射線医による専門的な読影など、互いに勉強になる事が多く非常に有意義な会となっています。この3科の敷居が低く、ワンチームで診療を行っている感覚を皆持っていると思います。このように、各科との連携が非常に良い結果、患者様に最善の治療を提供できていると考えています。当科は紹介状がなくとも受診は可能ですので、どんどん御紹介・受診をお願いいたします。



佐々木 雅人

消化器内科部長

(兼内科部長) (兼肝疾患センター長) (兼入院・外来診療部統括部長) (兼健康診断部長) (医療安全管理室長) (倫理担当) (兼がん総合診療センター長)

日本消化器病学会指導医・専門医、日本肝臓学会暫定指導医・肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医



千代永 卓

内視鏡科部長

日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、肝臓専門医



こ もり だ しゅんすけ
小森田 駿介

消化器内科副部長



やま おか てつ しゅう
山岡 哲秀

消化器内科医師



あ べ ゆう の
安倍 悠乃

消化器内科医師



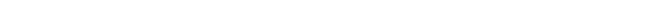
こ やま だ ゆう せい
小山田 侑生

消化器内科医師



いん どう りょう た
犬童 遼太

消化器内科医師



かわ かみ ゆう し
川上 裕史

非常勤医師 (毎週木曜日午後)



脳神経内科

脳神経内科では、脳梗塞、てんかんなどの神経救急疾患から、パーキンソン病、認知症などの神経変性疾患、また頭痛やしびれ、ふるえ、めまいなどの日常よくみられる症状にいたるまで、幅広く診断・治療を行っています。

脳梗塞については、超急性期はt-PAや血栓回収療法を積極的に検討し、急性期以降はリハビリにて早期離床を目指します。頭痛診療については2024年4月より頭痛外来（毎週金曜日午後）を開設し、CGRP製剤などの有効な治療薬を活用して頭痛に悩む方々の救済に取り組んでいます。さらに近年治療の進化の目覚ましい神経免疫疾患では、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症などに疾患修飾薬、生物学的製剤を導入して治療成績の向上に努めています。

地域の先生方からご紹介いただきました患者様につきましては、当科で治療方針が決定した後には可能な限り紹介元で治療を継続していただくよう病診連携を図っています。



はら やす ゆき
原 靖幸

脳神経内科部長

日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医・評議員、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会認定医



まつ お じゅん いち
松尾 淳一

脳神経内科医師

日本内科学会内科専門医、日本脳神経超音波学会脳神経超音波検査士、脳血栓回収療法実施医



いけ の した すすむ
池ノ下 健

非常勤医師（毎週金曜日）

糖尿病・代謝内科

主な対象疾患／糖尿病、甲状腺疾患（パセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など）、内分泌疾患（下垂体、副甲状腺、副腎など）

糖尿病・代謝内科は、予備軍も含めると2000万人超といわれる糖尿病を中心とした生活習慣病の診断・治療・教育から、甲状腺機能異常をはじめとした内分泌疾患、あるいは電解質異常の診断・治療などを行っています。また、栄養サポートチーム（NST）の一員として他科入院中の患者様の栄養状態改善や血糖コントロールを積極的に介入することで、術後合併症の減少等にも大きく貢献しております。今年は1名の先生が交代となりましたが、「フットワーク軽く」のモットーは変わらず診療を行っていきたいと思います。



かね こ けん ご
金子 健吾

院長補佐 糖尿病・代謝内科部長

（兼栄養管理部長）

日本糖尿病学会専門医・研修指導医

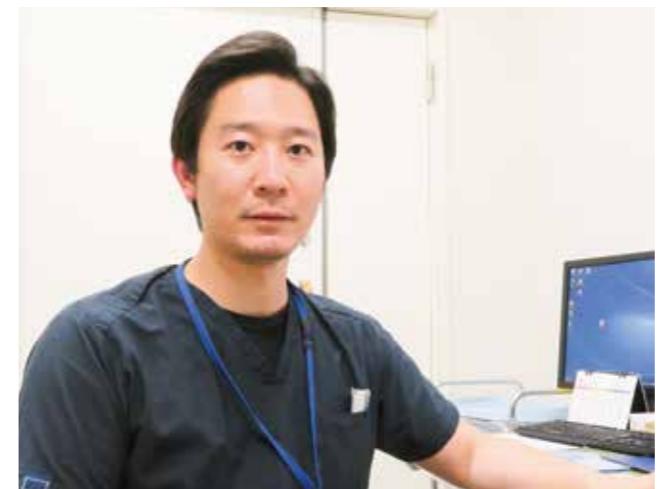


いわ した しん すけ
岩下 晋輔

第二糖尿病・代謝内科部長

（兼臨床研修センター副センター長）

日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本救急医学会救急科専門医



よし だ とも ふみ
吉田 知史

糖尿病・代謝内科医師



いし うち み さ
石内 実紗

糖尿病・代謝内科医師

循環器内科

主な対象疾患／心不全、虚血性心疾患（狭心症、急性心筋梗塞など）、心筋症、弁膜症、不整脈、末梢血管疾患、高血圧症、脂質異常症



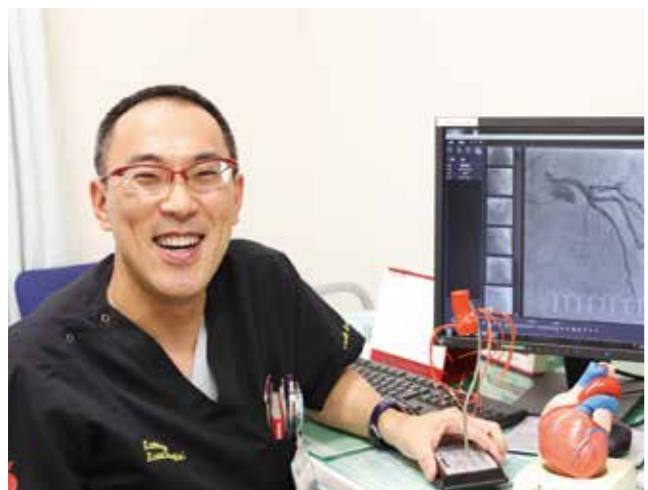
まつむら としゆき
松村 敏幸

副院長（兼医療安全管理室長）（兼治療就労両立支援部長）（兼労災疾病研究室長）（兼臨床研修センター長）（兼脳卒中・心臓病等総合支援センター長）（医療安全、倫理、教育研修、労災疾病、広報誌編集等担当）
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医、社会医学系指導医



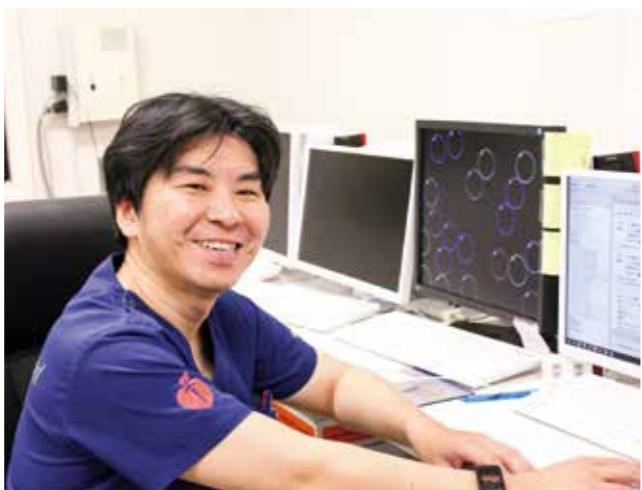
どい ひでき
土井 英樹

循環器内科部長（兼血管内科部長）
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、日本内科学会認定医



あべ こうじ
阿部 浩二

第二循環器内科部長
(兼心臓リハビリテーション部長)
日本循環器学会専門医・指導医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会総合内科専門医・指導医



かわかみ かずのぶ
川上 和伸

第三循環器内科部長
日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本心臓リハビリテーション学会指導士

循環器内科は石丸雄大先生を迎えて、新たな診療体制となりました。心臓疾患や全身の血管に起る疾患、動脈硬化症と深い関わりを持つ高血圧症や脂質異常症などの診断・治療を日々精力的に行ってています。私の使命としておりますスムーズな救急患者さんの受け入れ、的確な診断と治療の提供、地域およびかかりつけの先生方と連携したシームレスな診療などを通して、引き続き熊本県南の心臓・血管を守って参ります。心・血管系に関わることで、少しでも気になる患者様がおられましたら、いつでもご紹介ください。

本院では不整脈に対する治療（カテーテルアブレーションやペースメーカー植え込み）にも積極的に取り組んでいます。カテーテルアブレーションの多くは心房細動の患者様で、脳梗塞ならびに心不全の発症・再発予防に大きく寄与できています。昨年からは、塞栓症予防のための「左心耳閉鎖デバイス（ウォッチマン）」を、また本年4月からは電気の短い刺激で心筋だけを狙い治療ができる新たな低侵襲心房細動治療—「パルスフィールドアブレーション」を導入し、頻脈性不整脈まつわる最新の治療を一層提供できることになりました。さらに多くの患者様から喜ばれるよう頑張っておりますので、不整脈による症状でお困りの患者様がおられましたら、遠慮なくご相談ください。

昨今、主に心不全の患者様をはじめとした、高齢化や心臓疾患に伴う日常生活での活動レベル低下、いわゆるフレイルへの積極的な介入が求められています。当科では、入院および外来心臓リハビリテーションの充実を図っており、積極的に入院中から介入して外来でもサポートを継続することで、自分の足で生活できる状態を維持できるよう取り組んでいきたいと思います。



ふるかわ しょうたろう
古川 祥太郎

循環器内科副部長
日本循環器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本プライマリ・ケア学会認定指導医



みつせ たつろう
満瀬 達郎

循環器内科副部長
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、日本内科学会認定医



こもりた たかし
小森田 貴史

循環器内科副部長
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、JMECC/ICLS インストラクター、浅大腿動脈ステントグラフト実施医



いしまる たけひろ
石丸 雄大

循環器内科医師

循環器足壊疽外来

初めまして、日本形成外科学会専門医・指導医、医学博士の勾坂(さきさか)正信と申します。

宮崎大学の医学部を卒業後、東京大学の形成外科に入局し、その関連施設である杏林大学で波利井清紀教授に師事し、その医局人事で様々な病院で診療を行ってきました。

その中で、糖尿病性足潰瘍、重症下肢虚血、褥瘡などの「難治性創傷」といわれる病気は、東京近郊でさえ専門的に治療を行う医師が少なく、「これは故郷の熊本では困っている患者さん、医師がたくさんいるのではないか」と思いました。そのため、この分野の診療や研究に特に力を入れながら、国立がん研究センター中央病院や山梨大学病院では合計5年間、頭頸部癌、軟部悪性腫瘍、乳房再建などの遊離皮弁移植術による再建手術を専門的に行い、直近では静岡済生会総合病院の形成外科科長を勤めた後に、2021年4月から熊本に戻りました。

重症下肢虚血という、「足に傷ができる、そこに血が通っていないため、傷が治らず壊死していく病気」の治療を行う上で、血の巡りを改善していただける循環器内科医、心臓血管外科医の先生方と協力するのは必須であるため、熊本労災病院の循環器内科の土井英樹先生達とチームを組み、毎週水曜日に「循環器足壊疽外来」として診療を行っています。

出来るだけ残せる組織を温存しながら、同時に感染源となる壊死組織は的確に除去して感染コントロールを行い、最新の創傷治療の手段を用い、最短の治療期間で日常に復帰していただけることを目標に、医師、看護師、義肢装具士の皆さんで一丸となって治療にあたっています。傷の治療と血流の治療を同時進行で、同じ外来ブース内で行える環境が何よりもあります。

また入院が必要な場合も、傷を専門的に診ることができます皮膚排泄ケア認定看護師や、病棟の看護師さん達、循環器内科の先生方と連携して治療を行っています。

局所陰圧閉鎖療法や成長因子、創傷被覆材を用いた最新の治療はもちろん、傷が治った後も再発を予防するための靴やインソールの調整、装具作成、フットケアも行っており、総合的に足病変をフォローアップしていきます。

最近ではカテーテル治療が出来ないような末梢の血管病変をお持ちで、これまでには血流改善をあきらめざるを得なかつたような患者さんに対しても、LDLアフェレーシスや遠赤外線治療を組み合わせることで、慢性的な虚血の痛みを軽減させ、創傷を治癒に向かわせることができます。

引き続き、あきらめずに患肢の温存に尽力して参りますので、足の傷が治らない症例を抱えていらっしゃる先生方は、何でもご相談下さい。よろしくお願い申し上げます。



さき さか まさ のぶ
勾坂 正信

非常勤医師(毎週水曜日)
サキサカ病院
形成外科・美容外科医師

血管内科



ど い ひ で き
土井 英樹

血管内科部長(兼循環器内科部長)

日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、日本内科学会認定医

本院では、心臓以外の血管(下肢動脈、鎖骨下動脈、腎動脈、その他静脈疾患)の診療を開始して22年が経過いたしました。昨年までの末梢血管カテーテル治療症例数は2,200例を超え、地域やかかりつけの先生方の長年にわたるご協力に、心より感謝申し上げます。今後も循環器内科と心臓血管外科の医師一同、血管治療に積極的に取り組んでまいります。

近年、重症下肢虚血による足壊疽患者が増加しており、下肢切断や生命に関わる重篤な問題となっています。当科では毎週水曜日に、東京大学や杏林大学などで多くの創傷治療に携わってきた、サキサカ病院 形成外科 勾坂正信先生に、足壊疽班としてご活躍いただいております。勾坂先生の豊富な経験と卓越した技術は素晴らしい、循環器内科医師や病棟・外来看護師、WOC坂田舞看護師など、多くの職種のスタッフとoneチームとなり、患者様の気持ちに寄り添ったきめ細やかな診療を行っていただいております。足壊疽外来の開設以降、下肢切断を覚悟した多くの患者様の足を救うことができました。また、足壊疽治療の補助療法として、LDLアフェレーシス(レオカーナ)も導入し、積極的に実施しております。

今後もより一層お役に立てるよう尽力してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

血液内科

血液内科は2024年から外来診療を開始しました。血液腫瘍、貧血、血小板減少症・增多症、リンパ腫など幅広い疾患に対応します。治療に関しては熊本県内の専門医とも相談して最適な治療法を提示・提供してまいります。お気軽にご相談ください。



まつ おか まさ お
松岡 雅雄

院長



みつ い のり かず
三井 士和

非常勤医師(第2・第4火曜日)

腎臓内科

腎臓内科外来は火曜日14:30～梅本周朗、木曜日は神吉智子が診療にあたっております。尿は糸球体という装置(糸のように細い血管が球状になった集合体)により生成されています。この糸球体は左右の腎臓で合わせて200万個ほど存在していますが、高血圧症や老化、糖尿病、腎炎などの疾患により一度破壊されてしまうと、その機能を失ってしまい基本的には元に戻ることはありません。そのような状態になってしまふと、残っている機能の保持されていた糸球体の仕事量が増えてしまい、より一層腎機能の低下が進みます。そのため、腎機能低下ははじめはゆっくりと進行しますが、次第に加速度的に低下します。

そのため、腎機能をできるだけ長持ちさせるためには、より早期からの血圧コントロールや、糖尿病のコントロールといった治療介入を行うことが重要となってきます。

腎機能が低下した状態が慢性化してしまうと、慢性腎臓病と呼びます。一般的に腎機能が低下しても初期のうちは特に症状が出ることはほとんどありません。しかし、放っておくと尿が減ってきます。尿というのは簡単に言うと水と毒素の集まりですから、尿が少なくなると身体に水と毒素が溜まります。身体に水が溜まると①足のむくみやひどい場合には胸水になります。毒素が溜まると②疲れやすくなったり、食欲が落ちたりします。そのほかにも腎臓の機能が低下すると、電解質の一つであるカリウムが身体に貯留してしまい③高カリウム血症を来すことがあります。高カリウム血症は不整脈による心停止を来す可能性があり特に注意が必要です。カリウムは生きている細胞、特に野菜や果物に多く含まれていますので、腎機能の低下している方は、春はタケノコ、夏はスイカ・トマト、秋は栗、柿などの食べ物を摂取し過ぎないようにする必要があります。

また、酸性とアルカリ性のバランスを保つことができなくなり、身体が酸性に傾きます。これを④アシドーシスといい、やはり食欲が低下したり、疲れやすくなったりします。

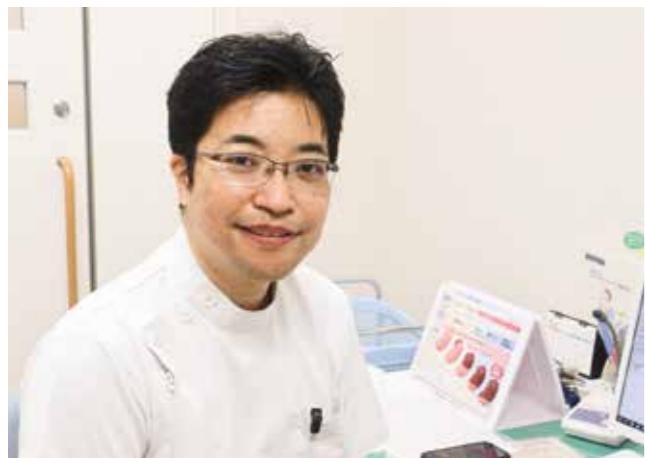
さらに腎機能が低下すると、腎臓で産生されている造血ホルモンが不足し、骨髄での赤血球の産生ができなくなり貧血が起ります。これを⑤腎性貧血といいます。

このように①～⑤のような様々な症状を来す慢性腎臓病ですが、2021年8月末、SGLT2阻害薬の1つであるダパグリフロジンが慢性腎臓病の適応となり、慢性腎臓病の進展抑制における大きな役割を期待されています。

SGLT2阻害薬使用時には、その利尿効果により血管内脱水に注意が必要なため、体調の悪い時には中止する必要があります。また、SGLT2阻害薬により尿中の糖分が上昇すると、尿中で細菌の増殖を起こしやすいため、膀胱炎のリスクに注意が必要です。経済的負担も高く、どのような患者さんにも使用できる薬剤ではない状態ではありますが、上手に使えばメリットの大きい薬剤です。

このように一般的には今まで治らないものであった慢性腎臓病も、治療の早期介入により現在の腎機能をいかに守っていくかという治療がスタートしています。

腎機能の低下している患者さん、尿蛋白を認める患者さんがいましたらいつでもご紹介ください。



梅本 周朗

非常勤医師 (毎週火曜日)

日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医、日本内科学会認定医・指導医、日本腎代替療法専門指導士



神吉 智子

非常勤医師 (毎週木曜日)

日本腎臓学会専門医

アレルギー外来



いで ぐち ひで はる
出口 秀治

非常勤医師 (第1・第3木曜日)

いでアレルギー・ぜんそくクリニック院長

アレルギー外来を担当させていただいております、いでアレルギー・ぜんそくクリニックの出口 (いでぐち) です。アレルギー外来を新設していただき、7年が経ちました。多くの患者様をご紹介いただきまして誠にありがとうございました。診療させていただきました患者様の年齢層は幅広く、乳児からご高齢の方まで受診していただきました。疾患としては食物アレルギーを始め、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、蕁麻疹を対象としております。

ここ最近のアレルギー疾患のトピックスとしましては重症病態への生物学製剤の導入があります。気管支喘息、アトピー性皮膚炎、突発性慢性蕁麻疹に加え、花粉症や好酸球性副鼻腔炎にも適応が拡大してまいりました。また、小児気管支喘息に対する適応も拡大し、既存のゾレアに加え、ヌーカラも投与できるようになりました。内服・吸入薬・軟膏製剤・点鼻薬では症状のコントロールが十分でないアレルギー疾患をお持ちの患者様に対して、慎重に導入を検討しております。

成人の食物アレルギーの経口負荷試験も、引き続き行っていますので、必要な患者様がいらっしゃいましたらご紹介頂きますようお願いします。

受付は第1・3週の木曜日の14:00～15:30となっております。今後も引き続き、何卒宜しくお願いします。

脳神経外科

脳神経外科では、くも膜下出血や脳出血といった出血性脳血管障害、慢性硬膜下血腫をはじめとする頭部外傷、良性腫瘍を中心とした脳腫瘍など、脳神経外科疾患全般の診療を行っています。虚血性脳血管障害に対しても、当院脳神経内科協力のもとで、頸動脈内膜剥離術や浅側頭動脈中大脳動脈吻合術などの血行再建術にも積極的に取り組んでまいります。熊本大学脳神経外科や近隣医療機関とも連携し、最先端の医療から地域医療まで幅広く実践してまいります。



うえ だ ゆたか
植田 裕

脳神経外科部長

(兼勤労者脳卒中センター長)

日本脳神経外科学会指導医、日本脳卒中学会指導医、日本脳ドック学会認定医



たけ しま ゆう き
竹島 裕貴

脳神経外科医師

日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳卒中学会脳卒中専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

心臓血管外科

当科では主に虚血性心疾患、弁膜症、心房細動などの不整脈、大動脈瘤や急性大動脈解離などの心臓大血管に対する外科的治療を行っており、安全性および確実性を考えた治療を心掛けています。ハイリスク症例では、人工心肺を用いない冠動脈バイパス術（オフポンプ心拍動下冠動脈バイパス術：OPCAB）やステントグラフト内挿術（血管内治療）など低侵襲手術および通常の手術にこれらの低侵襲手術を組み合わせて行うハイブリッド手術（例えば、弓部大動脈瘤に対する弓部分枝再建を併施するステントグラフト内挿術など）にも積極的に取り組んでおり、ハイリスク症例や緊急症例に対しても合併症や死亡率の低下を図り、術後もADLが損なわれない様な治療を心掛けています。下肢静脈瘤に対するレーザー治療（血管内治療の1つで小さい傷で治療します）も行っています。

心臓大血管疾患の手術適応、手術内容や手術のリスク（手術死亡率や合併症発生率など）、予後についてなどお気軽にご相談、ご紹介ください。



もり やま しゅう じ
森山 周二

副院長 心臓血管外科部長

（兼心臓血管センター長）（兼地域医療連携部長）（地域連携、薬事、治験等担当）

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構修練指導者、心臓血管外科専門医、日本胸部外科学会認定医、日本外科学会専門医・指導医・認定医、下肢静脈瘤血管内治療実施医



さだ なが たつ あき
定永 達明

心臓血管外科医師

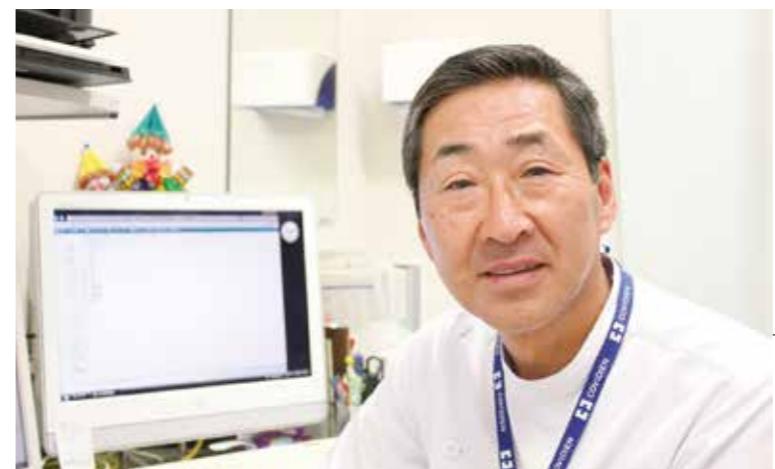
日本外科学会専門医



いの うえ けい じ ろう
井上 恵二朗

心臓血管外科医師

形成外科



形成外科は主に先天的、後天的な変形等を形態的・機能的に修復・再建する外科であり、社会への適応を最終目的として診療を行っています。現在、非常勤体制で、簡単な手術を中心に行っています。

お ぐら たけし
小倉 猛

形成外科医師

呼吸器外科

肺癌をはじめ、心臓・大血管および乳腺、脊椎以外の胸部の病変に対する手術を行っています。胸腔鏡を使用し、できるだけ低侵襲な手術を行うように努めています。特に肺癌に対しては、診断から手術、術前術後のリハビリ導入、術後の抗癌剤治療など、スムーズに治療を継続できるよう呼吸器内科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科と連携しています。



しば た ひで かつ
柴田 英克

呼吸器外科部長

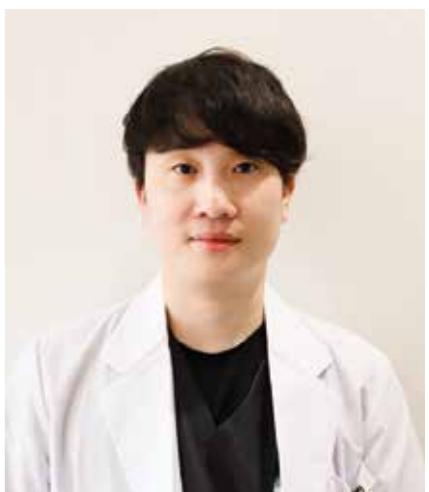
日本外科学会指導医・専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医・評議員、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、がん治療認定医、日本臨床細胞学会専門医



さな だ むね しゆ
眞田 宗

呼吸器外科副部長

日本呼吸器外科学会専門医、日本外科学会専門医、緩和ケア研修修了



なか お こう
中尾 洪

呼吸器外科医師

消化器外科／一般外科

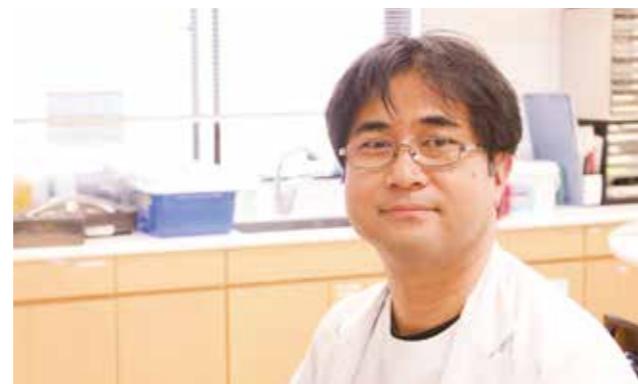
熊本県南領域の基幹病院として各領域外科疾患、救急外科疾患に対応できるように、また手術および術前術後の集学的治療を含めた各領域の癌診療において最新の知見、治療法を提供できることを基本としています。消化器外科領域の手術件数も増加傾向にあり、2024年は消化器外科領域として502例の手術を行っており、胃癌、大腸癌、肝臓癌、脾臓癌、そのほか、鼠径ヘルニア、虫垂炎などの領域に対する腹腔鏡下手術の他、今年度より県内初の国産手術支援ロボット、hinotoriを導入し、大腸癌を中心により精緻な手術ができる環境が整いました。症例によっては術前術後の化学療法や、放射線療法などを含めた集学的治療による治療成績の向上をめざし、最新の治療を提供できるように日々研鑽しております。また県南救急医療の中軸をなす病院として救急外科手術にも力を入れておりまして、ほぼ1/3の症例が緊急手術であり、常時外科的救急疾患、重症症例に対応しています。今年度中に大規模災害対応診療棟も完成の予定であり、地域の救急医療、災害医療の中核病院として機能充実を図ってまいります。熊本県南の基幹病院として一般的な外科的疾患、救急医療はもちろんのこと常に進歩多様化するがん診療においても最新の知見が提供できることを基本としています。



いの うえ みつ ひろ
井 上 光 弘

消化器外科部長・消化器内視鏡外科部長

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本消化器病学会専門医、日本癌治療認定医機構認定医



いい ざか まさ よし
飯 坂 正 義

院長補佐 一般外科部長・救急・災害診療部長

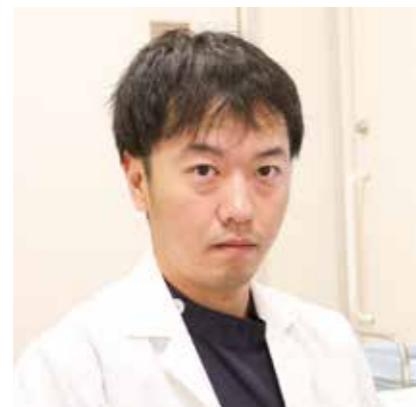
日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化管学会専門医、日本救急医学会専門医、ACLS プロバイダー、日本がん治療認定医機構認定医



つか もと まさ よ
塚 本 雅 代

第二消化器外科部長

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本癌治療認定医機構認定医、JATEC インストラクター



つじ あきら
辻 顕

第二消化器内視鏡外科部長

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会



あずま よう こ
東 陽 子

消化器外科医師

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会

乳腺外科

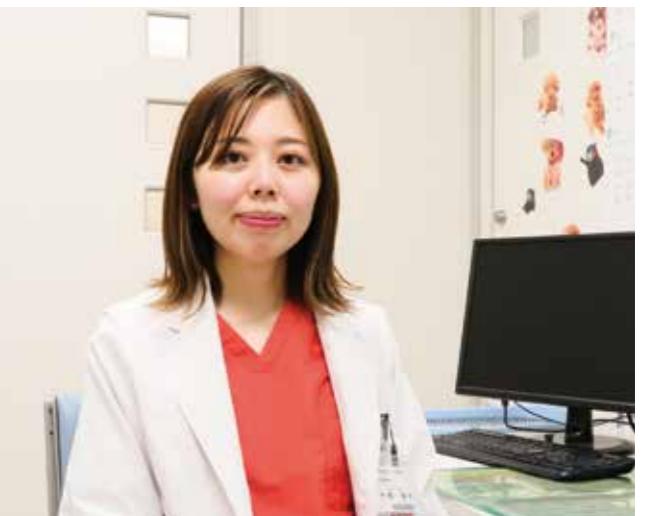
乳腺に関する全般的な疾患（乳がん、良性腫瘍、乳腺炎、女性化乳房など）を扱います。とりわけ当院で乳房精査を行い、乳がんではなかつた方については、乳がん啓蒙活動の一つとして乳がんのreal size 3D modelを供覧し、今後の乳がん検診普及と自己検診の意識向上に努めていきたいと考えています。また、今年度より早期乳癌に対するラジオ波焼灼治療を開始いたしました。開業医の先生方よりの紹介については、診療情報提供書を通じて、当院の診療内容が手に取るように理解していただけるように工夫しながら行っていきたいと思います。



はやし ひろ のり
林 裕 倫

院長補佐 乳腺外科部長

日本外科学会指導医、日本乳癌学会乳腺指導医



たけ の まさ こ
竹 野 雅 子

乳腺外科医師 非常勤医師

日本外科学会外科専門医

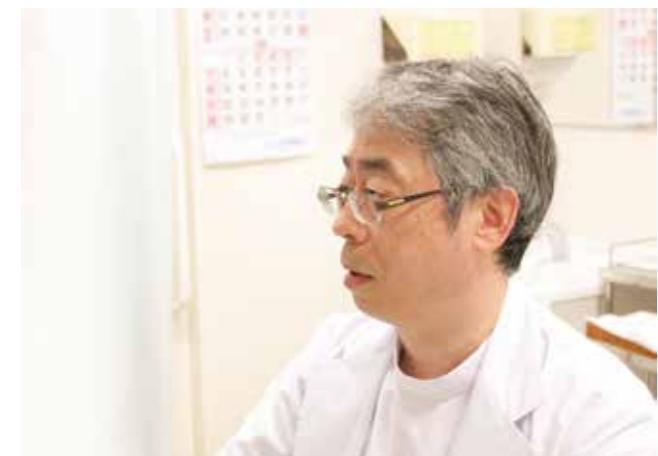


お気軽にご相談ください
独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院

整形外科

整形外科では、8名体制で診療を行っており各分野の専門医が在籍しております。脊椎外科（顕微鏡使用の除圧術や金属を併用した固定術など）、関節外科（人工関節や関節鏡視下手術など）、手外科、マイクロ、外傷（骨折や脱臼）に対する手術を多く行っています。

令和6年度は手術1,415例でした。救急・手術に力を入れており、時間外、緊急の場合にも対応しています。令和6年度、1日平均入院患者数69.8人、1日外来患者数88.7人、在院日数17.3日でした。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただいている。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院転院加療など大変お世話になっております。



いけ だ たか し
池田 天史

副院長（兼脊椎センター長）
(医事業務、救急・災害医療、機器整備、施設基準、施設設備改築、医師事務作業補助者等人事管理等担当)
脊椎脊髄外科専門医・指導医、日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医



みや ざき しん いち
宮崎 真一

院長補佐 整形外科部長
(兼関節外科部長)
日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医



つち だ とおる
土田 徹

手外科部長
日本整形外科学会専門医



む と う か ず ひ こ
武藤 和彦

脊椎外科部長
日本整形外科学会専門医、脊椎・脊椎外科専門医・指導医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、JATEC インストラクター、日本整形外科学会脊椎脊髄病医

2024年度年間実績

- 手術室での手術症例数 1,415例
- 入院患者数 25,480人（1日平均 69.8人）
- 外来患者数（延数） 21,556人（1日平均 88.7人）



た か き ひ ろ し
高木 寛

整形外科医師
日本整形外科学会専門医



せ き も と ひ ろ の ぶ
磧本 宏信

整形外科医師
日本整形外科学会専門医



ご や り ゆ う た
吳屋 亮太

整形外科医師
日本整形外科学会専門医



た の う え さ と る
田上 慧

整形外科医師

小児外科／移植外科

小児外科では、新生児から概ね中学生くらいまでのお子さんの一般的な外科疾患を扱います。新生児を含めて、吐く、便秘、腹部膨満、腹痛、痔瘻や裂肛などおしりの異常、便に血が混じる、便の色が薄い、内臓や体表の腫瘻、でべそや異常な分泌物などのおへその問題、足の付け根が腫れる（鼠径ヘルニア＝いわゆる脱腸）、陰嚢に水がたまって腫れる（陰嚢水腫）など、なんでもご相談ください。

移植外科では、肝臓移植を主に、手術前の相談や、移植医療の実施、脳死移植施設への紹介、術後のフォローアップを行います。小児から成人までの重い肝臓病のかたの治療選択相談、あるいは大学病院などで肝臓移植を受けたあとのケアを希望される場合には気軽にご相談ください。



おお や ゆう き
大矢 雄希

小児外科部長

（兼緩和ケア科部長）（兼医療安全管理室副室長）

日本外科学会指導医・専門医、日本小児外科学会専門医・評議員、日本移植学会移植認定医、肝臓専門医、日本外科感染症学会ICD（インフェクションコントロールドクター）



いの また ゆ き ひ ろ
猪股 裕紀洋

名誉院長

日本外科学会指導医、日本小児外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本移植学会移植認定医、社会医学系専門医

あさ おか げん き
朝岡 元気

小児外科医師

日本外科学会専門医、産業医



はやし だ しん た ろう
林田 信太郎

移植外科部長

（肝疾患センター副センター長）

日本外科学会専門医、日本移植学会移植認定医

小児科

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっています。外来では急性期の患者（主に感染症疾患）だけではなく神経疾患（てんかん、発達障害など）、腎泌尿器疾患（ネフローゼ症候群、慢性腎炎など）、内分泌疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など）、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療に従事しています。また入院患者の多くを占めるのが感染症疾患であり、院内感染防止に気を遣いながら対応しています。

小児科診療では子どもの病気の診断や治療だけでなく、成長・発達の評価をもとに子どもが健康に育っていくための助言や支援を実践することが求められています。健診や病後外来で機嫌よく過ごす子ども達を診たり、病気や事故に対する予防法について母親へ啓蒙したり、育児についてのちょっとした質問に答えたりするのは、小児科医の大事な役割であり、その役割自体が大きな喜びでもあると私たちは実感しています。

子どもは自分の言葉で正確に訴えることができませんが、体調の良否を表情・活気・食欲・周囲への反応などで表現しています。症状が改善しない、原因がはっきりしない、何か気になる、など小児の診療でお悩みの際は当科へお気軽にご相談・ご紹介ください。



よし む た じゅん い ち ろう
吉牟田 純一郎

小児科部長

日本小児科学会専門医



まつ いし め い
松石 芽衣

小児科副部長

日本小児科学会専門医



いわ もと なお き
岩本 直樹

小児科医師



なが ぬま せつ こ
永沼 節子

非常勤医師（毎週月曜日）

日本小児科学会専門医

皮膚科

皮膚科は医師3名で診療を行っています。

外来では、湿疹、真菌症、中毒疹などの一般皮膚疾患治療に加えて、皮膚腫瘍・皮下腫瘍の診断・小手術を行っています。

入院では、帯状疱疹、蜂窩織炎といった感染症、全身性薬疹、皮膚良性および悪性腫瘍の治療を行っています。

患者様に良質な医療を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



じょう の
城 野 剛 充

皮膚科部長
日本皮膚科学会、難病指定医



おし かわ ゆ か
押 川 由 佳

皮膚科副部長
日本皮膚科学会専門医



とう かい けん や
東 海 堅 也

皮膚科医師

泌尿器科

今年度、富永成一郎と眞鍋笙之介が新たに加わり、3名で診療を行っています。部長の小生も21年目を迎えました。

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎孟尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

今年度、当院でも国産手術支援ロボット(hinotori)を導入しました。泌尿器科分野でも前立腺癌の手術での導入を7月に開始したところで、今後も積極的に症例を重ねていく所存です。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくお願い申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、この10数年一定数を維持していることから八代目では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介お願い申し上げます。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行っていきますので、いつでもお気軽にご相談ください。



みや もと ゆたか
宮 本 豊

泌尿器科部長
日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・泌尿器科専門医



とみ なが せい いち ろう
富 永 成 一 郎

第二泌尿器科部長

日本泌尿器科学会泌尿器科指導医・泌尿器科専門医、
日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術
認定医



ま な べ し ん の す け
眞 鍋 笙 之 介

泌尿器科医師

産婦人科

現在、産婦人科は婦人科外来診療のみを行っています。入院・手術が必要な方に対しては、責任をもって適切な医療機関へご紹介させていただきます。

なお、八代市に住民票がある出産後4か月未満のお母さんと赤ちゃんに対する「産後ケア事業（通所型および宿泊型）」は、引き続き行ってまいりますのでご活用ください。

また、2024年5月からは思春期の心と体のお悩みに対する「思春期相談窓口」を開設し、思春期保健相談士が対応しています。男女を問いませんのでご相談ください。



もり やま しん ご
森山 伸吾

産婦人科医師



ふく まつ ゆき とし
福松 之敦

非常勤医師（毎週水曜日）

耳鼻咽喉科

私達は脳と眼を除く首から上の領域をすべて担当しています。扱う領域は非常に多岐にわたります。

- ・すべての耳鼻咽喉科・頭頸部疾患において80点以上の診療を目指す。
- ・365日24時間救急対応を行う。
- ・診療レベル向上のための研鑽を怠らない。

これらを目標に診療に取り組んでいます。



ます だ まさ こ
増田 聖子

院長補佐 耳鼻咽喉科部長

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医、補聴器相談医、騒音性難聴担当医、日本癌治療認定医機構がん治療認定医、日本気管食道科学会咽喉系専門医、日本耳科学会認定医、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、日本顔面神経学会顔面神経麻痺相談医、日本めまい平衡医学会めまい相談医、難病指定医、緩和ケア研修修了、臨床研修指導医講習会修了



みや もと ゆう すけ
宮本 祐亮

耳鼻咽喉科副部長

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、緩和ケア研修修了



あり ま りょう へい
有馬 亮平

耳鼻咽喉科医師

● 外来診療予定表

	月	火	水	木	金
午 前	増田	増田	宮本	増田	担当医
午 後	宮本	有馬	有馬	宮本	

眼科

眼科の診療体制は医師1名、看護師1名、視能訓練士2名（うち1名育休中）で診療を行っています。

外来日は月曜日～金曜日の主に午前中で、完全予約制ではありませんので当日午前11時までに受診いただきますようお願いいたします。午後からは特殊検査・処置、手術説明会を行っています。手術は月・木曜日の午後で全て入院下で施行しており、白内障手術を中心とした翼状片手術の他、全身麻酔下で涙囊鼻腔吻合術鼻内法(DCR)を施行しています。

耳鼻咽喉科と眼科合同手術のため鼻中隔湾曲症や副鼻腔炎など併発するような涙道狭窄・閉鎖症例においては鼻中隔矯正術、内視鏡下副鼻腔手術など同時手術が可能です。

令和6年度の手術件数は内眼手術228件、外眼手術12件（含DCR）、レーザー手術18件となりました。硝子体注射は計224件（アイリーア71件、ラニビズマブBS103件、バビースモ50件）でした。

今後とも熊本県南地域における中核病院としての役割を果たしていくことを努めて参りたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。



よし づみ はな こ
吉 積 華 子

眼科医師

放射線科

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医研修期機関に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

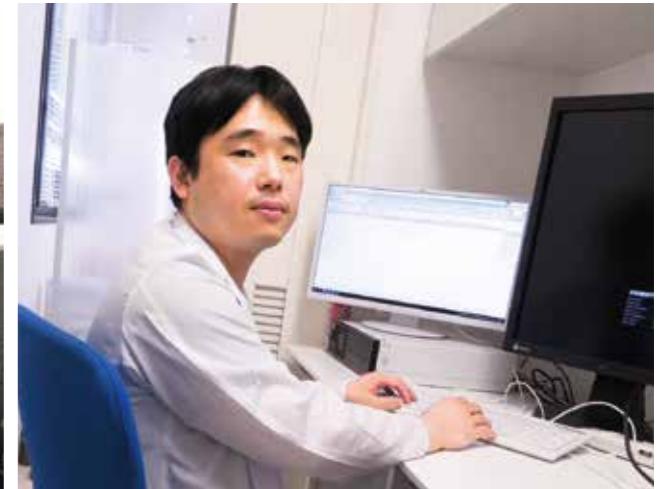
平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

また、平成29年1月より熊本県初の2管球CTが稼働しています。国内でも最高峰レベルのCT装置ですので、熊本県南地区をはじめ医療圈ニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。お困りの症例などありましたら是非ご紹介ください。



あら き ゆう し
荒 木 裕 至

院長補佐 放射線科部長
(兼中央診療部統括部長) (兼医療情報部長)
日本医学放射線学会研修指導者、
日本医学放射線学会放射線診断専門医



よこ た やす ひろ
横 田 康 宏

第二放射線科部長
日本医学放射線学会放射線診断専門医

リハビリテーション科

当科は当院入院中の患者様に対しリハビリテーションを行っています。

高齢化に伴い、元々の病気の状態が不安定になったり、合併症が増えて不自由になり、日常生活で配慮や調整が必要となります。そういうときに、リハビリテーションの検査や治療で、介護される方だけでなく介護する方も安全で安楽な暮らしができるように取り組んでおります。



まつ むら なお き
松 村 直 樹

リハビリテーション科部長
日本リハビリテーション医学会認定医



ほか むら まさ みち
外 村 政 道

放射線科医師



あか ぎ りょう
赤 木 涼

放射線科医師

麻酔科

当院の年間麻酔科管理症例は2600例あまりとなっています。重症患者や、長時間手術後の患者については、術後集中治療室で診療を行っています。また、今年度から、術後疼痛管理チームの一員として活動をはじめる予定です。手術関連の業務で精いっぱいの状況が続いており、現在ペインクリニック外来は休診しております。

『断らない麻酔』を心がけていますが、術前診察時に手術を延期したほうが良いと判断することがあります。全身状態改善まで手術をお待ち頂いたり、追加検査を行って頂いたりする場合もあります。これらは安全な手術・麻酔を行う上で重要と考えます。どうぞご理解ください。

各科と協力しながら安全な麻酔、高度かつ質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。



成松 紀子

麻酔科部長
(兼集中治療部長) (麻酔科標榜医)
日本麻酔科学会認定指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本集中治療医学会専門医、日本救急医学会専門医、日本集中治療医学会
Infection Control Doctor(ICD)、日本DMAT隊員(統括)



山部 典久

第二麻酔科部長
(兼中央手術部長) (麻酔科標榜医)
日本麻酔科学会認定指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医



日高 翔

第三麻酔科部長
(麻酔科標榜医)
日本専門医機構認定麻酔科専門医



中村 孝英

麻酔科医師 (麻酔科標榜医)



宮本 洋輔

麻酔科医師 (麻酔科標榜医)



秦 大一朗

麻酔科医師

リウマチ内科／リウマチ・膠原病内科

関節リウマチは効果的な治療薬であるMTXや生物学的製剤、JAK阻害剤などが積極的に使われるようになり、早期診断治療により良好な疾患コントロールも可能となっていました。少しでもお役に立てればと思います。



山村 雄治

リウマチ科医師
浜田呼吸器科内科クリニック／
リウマチ科

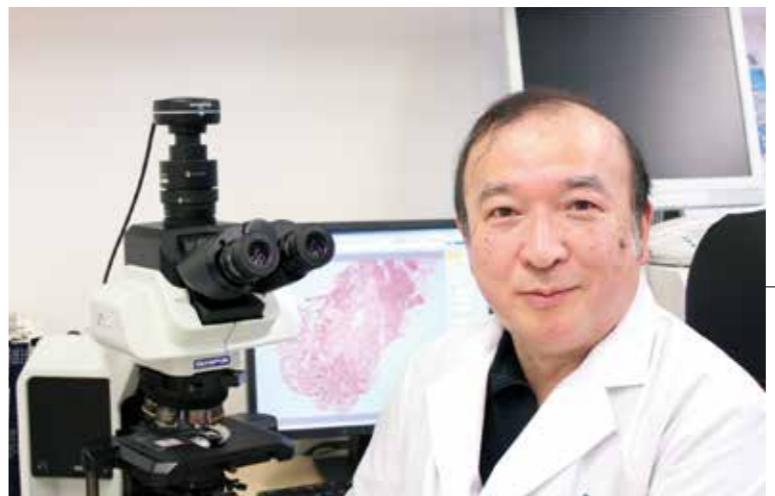
日本リウマチ学会専門医(評議員)、ICD認定医、【所属学会】日本シェーグレン症候群学会等

宮川 英子

リウマチ・膠原病内科 非常勤医師(第2・4木曜日)

病理診断科

当科は熊本県南の中核病院における病理診断部門であり、質の高い医療を支援するために、組織診断、細胞診断、術中迅速診断、病理理解剖を行っています。近隣の医療機関からの生検などの診断も行っています。病理理解剖の結果はCPCを行い、臨床の向上に役立てられています。電子カルテや病理診断支援システムの導入により、マクロ、ミクロの情報を併せた病理診断の報告を行っています。術中迅速診断では、手術中に病変の組織診断や断端の判定などを行い、常勤病理医のいるメリットを最大限にいかしています。自動免疫染色装置の導入により、乳癌や胃癌におけるHER2(IHC)、悪性リンパ腫や軟部腫瘍などに関連した、さまざまな免疫染色を院内で迅速に行い、より精度の高い病理診断に寄与しています。



栗脇 一三

病理診断科部長
(兼検査科部長)
日本専門医機構病理専門医、
日本臨床細胞学会認定細胞診専門医

歯科口腔外科

歯科口腔外科は令和6年10月1日より新しく開設され、診療をスタートしました。“口は命の入り口”と言われるように、健全な顎口腔機能の維持が全身の健康に寄与することは明白な事実です。

歯科口腔外科の診療領域は、抜歯に始まり、顎口腔領域にできる癌を含めた粘膜疾患、顎骨腫瘍、顎変形症、顎骨骨折、薬剤関連顎骨壊死、口腔感染症そして唾液腺疾患など実に多岐に渡ります。特に薬剤関連顎骨壊死については、口腔外科疾患の中でも増加傾向にある疾患です。時に急性化することもあるために、必要に応じて入院下で消炎および外科的な治療介入を行なっております。

八代歯科医師会の先生方をはじめ、地域の医療機関の先生方のお力添えを賜りながら、患者様一人一人の立場に寄り添って、地域に根差した安心安全な医療を提供できるように心掛けております。月曜日から金曜日まで毎日外来診察を行なっておりますので、急患の患者様にも迅速に対応できるように心掛けております。



なか もと まさ ふみ
中元 雅史

歯科口腔外科部長

日本口腔外科学会口腔外科認定医、
歯科医師臨床研修指導医



こう ざい りょう すけ
香西 良亮

歯科口腔外科医師

日本口腔外科学会口腔外科認定医

臨床研修医

熊本労災病院は、次世代を担う医師を育成するため、研修教育に力を入れています。当院の研修環境は、リラックスした雰囲気の中で自主的にのびのびと学べるよう整えられており、研修医がストレスフリーで安心して成長できることを大切にしています。

当院では、研修教育を病院スタッフ全員で行っており、全員が研修医の成長を応援します。プログラム責任者は5名おり、それぞれがポジティブな熱血指導を行うことをモットーに、研修医に対してきめ細やかなサポートを提供しています。このように、各分野の専門家が協力し合いながら、研修医の臨床能力の向上に努めています。

具体的な教育プログラムの一環として、当院の救急実習は「屋根瓦方式」を採用しており、上級医のもとでチーム体制での学びを重視しています。これにより、研修医は現場での迅速な判断力やチーム医療の重要性を理解し、実践力を養うことができます。また、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、充実したシミュレーター・ラボを活用した多様な学習機会を提供しています。実際の医療現場に近い状況をシミュレーションしたトレーニングを通じて、研修医たちは実践的なスキルを身につけることができます。これにより、研修医は自信を持って患者に向き合える医師として成長しています。さらに、熊本労災病院は卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定病院であり、その教育水準の高さが保証されています。現在、14名の研修医が基幹型研修医として活動しており、たすき掛けの研修医を含めると20名前後の研修医が当院で学んでいます。

熊本労災病院は、地域医療を支える存在として、今後も病診連携の強化に努めてまいります。地域の開業医の皆様と手を取り合い、患者様に最善の医療を提供するために、研修医の教育と育成に引き継ぎ力を注いでいきたいと考えています。

随時、地域医療の発展に向けたご意見やご要望をお待ちしております。今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

1年次 研修医



いのくち たくや えとう ゆき そのかわ ひとみ
後列左から：井之口 阜也、江藤 悠紀、園川 仁美
なかの ふじおか よこた りさ
前列左から：中野 ゆいな、藤岡 らん、横田 理沙

2年次 研修医



かねむら なおずみ ふくなが れお えぐち こうへい まつさこ とも や
後列左から：金村 尚純、福永 恵央、江口 航平、松迫 朋弥
にしかわ あやか はすいけ みく ふじと りこ やまもと まお
前列左から：西川 文華、蓮池 美玖、富士登 璃子、山本 真音

看護部

当院は、熊本県南の公的中核病院として、救急医療・がん治療・災害医療等に積極的に取り組んでいます。近年、患者さんの高齢化に加え、短い入院期間内で集約された医療や看護サービスが求められています。当院は全職員が力を合わせ、チーム力を発揮し良質で信頼される医療の実践を目指しています。そして、看護部は「病院の理念と倫理に基づき患者さんに寄り添い満足して頂ける看護を提供します」を理念としております。看護職は、日々のケアを通して患者さんの心にふれ、心に寄り添い、心に残るような看護を実践していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



川上 雅美

看護部長

認定看護管理者

坂上 和江

看護副部長

認定看護管理者

山本 佐登美

看護副部長

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者に寄り添い
満足して頂ける看護を提供します。

看護部 基本方針

- 1 社会情勢や医療の進歩に即応し、安全で安心して頂ける質の良い看護サービスを効率的に提供する
- 2 インフォームドコンセントをもとに自己決定を支える看護を提供する
- 3 急性期医療・地域医療推進の中、医療チームの一員としての職務を果たせるように看護実践能力を高める
- 4 専門職業人として、質の高い看護を目指し自己研鑽に努める

認定看護師・特定認定看護師・特定看護師

● 認定看護師（＊は特定行為研修を修了した認定看護師）

緩和ケア認定看護師／2名、糖尿病看護認定看護師／1名、感染管理認定看護師／3名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師／2名、皮膚・排泄ケア認定看護師／1名、がん化学療法看護認定看護師／1名、認知症看護認定看護師／2名、クリティカルケア認定看護師／2名、呼吸器疾患看護認定看護師／1名、心不全看護認定看護師／1名 計16名

認定分野	氏名
緩和ケア	岡山 浩子
	宮川 亜希子
感染管理	和久田 容子 *
	高村 敦史
糖尿病看護	大倉 尚子
皮膚・排泄ケア	本山 詔誇
脳卒中リハビリテーション看護	坂田 舞 *
	水町 広恵
	田中 孝樹
クリティカルケア	寺瀬 真利子 *
	橋本 直紀 *
呼吸器疾患看護	菅原 真澄 *
がん化学療法看護	梅田 知寿子
	柿本 里美
認知症看護	上淵 恵子
心不全看護	堀 美穂

● 特定看護師（特定行為研修を修了した看護師）／9名

氏名	氏名
水口 清美	中川 英彦
上田 陽子	東 美紀
木村 美穂	橋本 裕子
古川 由紀	稻田 聰美
松下 千鶴	

薬剤部

薬剤部では、患者さまのアドヒアラランス向上と副作用の防止を図るために、服薬や薬の注意点などの説明を入院患者さまを中心に行っています。また、安全で適正に医薬品を使用するために、医療従事者や患者さま・患者さま御家族へ、薬に関する情報を提供しています。現在、感染、糖尿病、栄養、がん、緩和などのチームの一員としても活動しています。医療が多様化・複雑化する中、安心できる医療の提供のため、より専門的な知識を備える必要があり、薬剤部でも認定・専門薬剤師の資格修得を推進し資格修得者も増えてきました。今後も患者さまへより良い治療が行われるために、医薬品適正使用の支援に努めてまいりますのでよろしくお願ひいたします。



薬剤部長
たま おき ひで なり
玉置 秀成

中央検査部

中央検査部は、臨床検査センター長の福田孝一先生と検査科部長（病理診断科部長が兼務）の栗脇一三先生のご指導の下、臨床検査技師29名（正規24名、嘱託3名、定年後再雇用2名）、検査助手1名、検査事務1名が在籍し日々の検査業務に取り組んでいます。

中央検査部には、細胞検査士、超音波検査士、感染制御認定臨床微生物検査技師などの認定資格者が多数在籍し、高度で専門的な診療支援を行っています。また、学会発表や研修会への講師派遣等の学術的な活動も積極的に行っており、ICTやNST、糖尿病教室などのチーム医療にも貢献しています。

検査精度保証としては、毎年 日本医師会、日臨技、熊臨技の外部精度管理も受審し、精度保証認証施設として認定も受けています。

生理検査部門には、最新のハイエンド超音波検査機器を多数整備し、心臓・腹部・血管・乳腺・表在領域の質の高い画像診断に貢献しています。検体検査部門は、一般検査、血液検査、生化学検査、輸血検査が含まれ、最新の高精度な自動化分析機器を整備し、迅速且つ信頼性の高いデータを報告しています。細菌検査部門は、県南地区の感染制御の中心的役割を担っており、県内では当院を含め5施設しかない研修施設認定も受けています。病理検査部門では、術中迅速診断や多項目の免疫染色や特殊染色を院内実施し、迅速かつ質の高い病理診断に貢献しています。また、抗悪性腫瘍剤や免疫チェックポイント阻害剤へのコンパニオン診断や迅速オンライン細胞診(ROSE)への対応を行い、適切な治療と患者負担軽減にも貢献しています。

中央検査部は、これからもスタッフ一丸となり、地域医療のニーズに対応できる検査部を目指し全力で努めてまいります。連携医療機関の先生方におかれましては、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



臨床検査センター長
ふく だ たか いち
福田 孝一

中央検査部長
もり たに とも き
森谷 智輝

中央放射線部

中央放射線部は19名の技師と助手1名が在籍しております。

2管球CT、MRI(3.0T)を含む26台の放射線撮影機器を取り扱っております。放射線科部長、荒木裕至先生をはじめ放射線科の先生方と連携し、撮影から画像診断まで速やかに行えるよう心掛けています。中央放射線部ではこれからも撮影技術を高める努力を重ね、信頼できる画像の提供を目指していきたいと考えていますので、連携医療機関の先生方におかれましては、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



中央放射線部長
しの つ じゅん じ
篠津 順二

中央リハビリテーション部

中央リハビリテーション部では、疾病の発症や手術直後の早い時期からリスク管理に配慮し、疾患の病態や病型に応じたりハビリテーションを実施し、生じうる障害や合併症を可能な限り予測、それらを最少化させるため急性期リハビリテーションを実践しています。こうした急性期からの取り組みが、地域医療連携を行っていく上で、その方の良好な機能・能力回復に繋ぐことができると考えています。現在のリハビリテーションは、疾患別に細分化が進んでいます。心臓や呼吸器の疾患、がん、脳血管疾患、運動器疾患など疾患別にリハビリテーションが提供されるようになっており、必要な資格や研修を受講した専門の療法士が実施しています。理学療法士16名、作業療法士9名、言語聴覚士4名および助手3名の32名がそれぞれの職能を活かし、心を込めてリハビリ診療を行います。また当院が実践する政策医療において、職場への復職支援や両立支援、勤労者予防医療活動にも積極的に取り組んで参ります。

地域活動としては、県から委託されている「八代地域リハビリテーション広域支援センター」として、圏域でのリハビリテーション従事者や地域の方々を対象とした研修会の開催や現地での相談対応など、地域に密着した活動に取り組んでいます。



中央リハビリテーション部長
やす なが まさ とし
安永 雅年

中央臨床工学部

中央臨床工学部では、医師の指示の下、人工心肺装置や血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作・保守・点検を行うことを主な業務としています。患者さまの治療・検査に関わる「臨床技術提供業務」、生命維持管理装置を含む医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」を行っています。業務内容が多岐にわたるため、複数の診療科の医師、看護師、その他医療スタッフ、事務職員の方々と協力し、患者さまへより良い医療を提供できるように日々の業務に取り組んでいます。



中央臨床工学部長
うえ だ きみ あき
植田 公昭

栄養管理部・栄養管理室

栄養管理部では、患者さまの栄養改善、病状改善について、「食」の専門性を活かし、各医療スタッフと連携しながら取り組んでいます。

入院患者様には、衛生管理を徹底し、安心安全で喜んでいただける食事の提供を行い、食事サービス面においては、毎日の朝食の選択メニューに加え、年間43回の行事食を提供し、中でも治療や疾患で食事摂取量が低下されている患者さまに対し、直接聞き取りを行いながら食事を提供するハート食（ハートフル食）は、患者さまに喜んでいただいている。また、入院・外来の患者さまに対し、肥満、糖尿病、循環器疾患、消化器疾患、癌、嚥下障害、アレルギー疾患など、医師の指示のもと個人指導・集団指導を実施しています。チーム医療では、NSTや緩和ケア、褥瘡チームに参画し、各医療スタッフとともに積極的な栄養改善に努めています。

栄養指導は毎日実施しております。ご要望などございましたら、お気軽に御相談、御紹介ください。



栄養管理室長
ふじ い
藤井 しのぶ

地域医療連携部・地域医療連携室

入退院支援センター

目的

入院前から患者・家族が入院生活をイメージできるとともに、患者の身体的・精神的・社会的背景を把握し、退院後の生活を想定して院内外の多職種が連携し「切れ目のない支援」を提供する。

目標

1. 患者・家族が入院に対する不安がなく生活できるようにする。
2. 在宅復帰に向けた問題点を早期に発見し、患者・家族と共に解決できるように支援する。
3. 多職種（医師・病棟看護師・外来看護師・退院調整部門・医療ソーシャルワーカー・介護支援専門員・保健師・薬剤師・管理栄養士・リハビリ部門・事務等）と連携し、より専門的支援ができる。
4. 地域の医療機関・施設・介護事業所等との連携や社会資源の活用を行い、患者の療養環境を整える。

入退院支援センターでは、入院支援看護師3名、入院支援事務員3名で対応しています。入院支援看護師は、入院前に「身体的・精神的・社会的背景を含めた患者情報の把握」「入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握」「褥瘡に関する危険因子の評価」「栄養状態の評価」「服薬中の薬剤の確認」「退院困難な要因の有無の評価」「入院中に行われる治療・検査の説明」「入院生活の説明」などを行います。入院支援事務員は、入院手続きに必要な書類の説明と入院案内、医療限度額適用・標準負担額認定証の手続きに対する説明、事務処理を行います。

入院支援看護師の具体的な支援内容は、入院・術前オリエンテーション・呼吸訓練指導・禁煙指導・栄養指導・休薬指導・口腔問題の確認及び口腔ケアの必要性に関する説明並びに医科歯科連携の手続き等です。患者に応じた支援を行い、スムーズな入院に結び付けています。また、病棟や外来と連携を図り看護の継続ができるように努め、必要に応じて多職種と連携しています。

● 入院支援をすることでの患者さまの利点

入退院支援センターであらかじめ説明を受けていれば、退院までにどのような治療プロセスをたどり、準備が必要なのかを話し合うことができ、心構えもできます。また、患者・家族の不安や予測される問題に対して早期から多職種協働することで、安全・安楽な入院生活を送ることにも繋がります。

相談支援・退院調整・両立支援部門

地域医療連携室では、退院調整看護師5名、医療ソーシャルワーカー4名の計9名で、病棟担当制により業務にあたっています。なお、3名の医療ソーシャルワーカーが両立支援コーディネーターの資格を有しており、機構の大きな使命のひとつである治療と仕事の両立支援にも積極的に取り組んでおります。どうぞお気軽にご相談ください。

- 入退院等に関わる各種ご相談・ご支援

- 各種社会福祉制度のご相談

- 医療機関・介護保険事業所との連携

- 治療と就労の両立についてのご支援



退院調整看護師及び医療ソーシャルワーカー

前列左から：田本 厚子 退院調整看護師 担当：西3病棟

宮川 亜希子 地域医療連携室看護師長補佐 涉外担当

中島 真由子 地域医療連携室看護師長

小田原 美和 退院調整看護師 担当：東5病棟

後列左から：楠本 舞衣子 退院調整看護師 担当：西5病棟

鷲見 美鈴 退院調整看護師 担当：中央3病棟

久保田 聖美 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 担当：西4病棟、東3病棟

鎌田 あや 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 担当：中央4病棟

中村 麻衣子 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 担当：東4病棟

樋谷 豊 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 相談支援・両立支援部門

事務部門

事務が2名在籍しております。地域医療連携室では、地域医療機関、市町村行政機関及び介護保険事業所・施設等との連携窓口として、患者様の転院・在宅復帰支援、社会資源の情報提供、各種相談など幅広い業務を担っています。今後とも、これまで以上に密な連携を取り、地域と病院との架け橋となれるよう心掛けてまいります。

地域医療機関の先生方、患者様をはじめ、たくさんの方々に気軽にご利用いただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

- 紹介患者様の初診及び放射線科検査予約取得
再診のご連絡の場合は直接、外来(14時以降)へご連絡ください
- 紹介状・返書の管理
お返事が遅れている場合は恐れ入りますがご連絡ください
- 行政機関および地域医療機関等との連絡・調整
- その他よろず問合せ

地域医療連携部長・地域医療連携副部長

もり やま しゅう じ 森 山 周 二	副院長(兼心臓血管外科部長)(兼心臓血管センター長) (兼地域医療連携部長)(地域連携、薬事、治験等担当)
まつ むら とし ゆき 松 村 敏 幸	副院長(兼医療安全管理室長)(兼治療就労両立支援部長)(兼労災疾病研究室長) (兼臨床研修センター長)(兼脳卒中・心臓病等総合支援センター長) (兼地域医療連携副部長) (医療安全、倫理、教育研修、労災疾病、広報誌編集等担当)

どこに問い合わせたらいいか分からない…そのような時は一先ずお気軽にお電話ください。

問い合わせについて

病院代表電話



0965-33-4151

※救急患者に関する連絡はこちらへお願いします。

地域医療連携室
直通ファックス

0965-34-5799

放射線科検査予約
専用直通電話

0965-33-7227

検査方法の詳細につきましては病院HP:「医療関係の方へ」→「患者紹介」をご覧ください。

入退院支援・相談窓口
専用直通電話

0965-33-7231

退院調整、相談支援、両立支援に関するご用件の際にご利用ください。

熊本労災病院外来診療担当医表

診療科	曜日	月	火	水	木	金
内科	呼吸器内科	山根 宏美	安道 誠	丸山 広高	安道 誠	木村 俊貴
	総合内科/再診	石内 実紗(糖)	田中 愛美(呼)	五江利景明(呼)	吉田 知史(糖)	安倍 悠乃(消)
	脳神経内科	原 靖幸	松尾 淳一	原 靖幸	松尾 淳一	池ノ下 侑
	糖尿病・代謝内科	岩下 晋輔	金子 健吾	櫻井 希美	金子 健吾	岩下 晋輔
	消化器内科	千代永 卓	千代永 卓	小森田駿介	山岡 哲秀	小森田駿介
	PEG作成相談	山岡哲秀 / 安倍悠乃	一	山岡哲秀 / 安倍悠乃	一	一
	腫瘍内科	一		丸山 広高	一	丸山 広高
	再 診	犬童 遼太(消)	山岡 哲秀(消)	安倍 悠乃(消)	小山田侑生(消)	泉 拓希(呼)
		木村 俊貴(呼)	泉 拓希(呼)	吉田 知史(糖)	山根 宏美(呼)	丸山 広高(呼)
	午前	リウマチ内科 山村 雄治 (要予約)	血液内科・腫瘍内科 (第2・4) 三井 士和 9:00~15:00	消化器内科 (再診) 佐々木雅人	リウマチ・膠原病 内科 (第2・4) 宮川 英子 9:00~12時(要予約) (新患者付1時迄)	腎臓内科 内科 神吉 郁子 9:00~15時 (要予約)
午後	再診/特殊外来	リウマチ内科 山村 雄治 (要予約)	腎臓内科 内科 山村 雄治 14:30~16:30	リウマチ 内科 金子 健吾 14:00~15:30 (要予約)	消化器内科 外 松岡 雅雄 (要予約)	消化器内科 内科 佐々木雅人 14~16時 (新患者付1時迄)
	発達相談外来	一	一	一	一	担当医(第1・3週)
心臓 血管 センター	循環器内科・ 血管外科(内科)	満瀬 達郎	小森田 貴史	松村敏幸 / 土井英樹	阿部浩二 / 担当医	古川祥太郎 / 担当医
	不整脈外来	川上 和伸(予約のみ)	一	一	川上 和伸	一
	特殊外来	一	一	循環器足墻症外来 包膜 正信 (9:00~15:00)(要予約)	一	一
小児科	心臓血管外科	一	森山 周二	一	森山 周二	金子 泰史 (第2・4 再診のみ)
	一般外来	吉牟田純一郎 岩本直樹 / 松石芽衣 永沼節子	吉牟田純一郎 岩本直樹 松石 芽衣	吉牟田純一郎 岩本直樹 松石 芽衣	吉牟田純一郎 岩本直樹 / 松石芽衣	吉牟田純一郎 岩本直樹 坂本理恵子(第1週の午後)
	予防接種	一	予防接種(紹介のみ)	一	一	一
外科	消化器外科 初診	馬場 秀夫	井上 光弘	一	飯坂 正義	塙本 雅代
	再診	井上 光弘	飯坂正義 / 辻 顕	一	飯坂 正義	塙本 雅代
小児科・移植外科	大矢 雄希	一	猪股 裕紀洋	林田 信太郎	一	一
	呼吸器外科	一	柴田 英克	一	一	柴田英克 / 真田 宗
乳腺外科・乳腺センター	林 裕倫	林 裕倫	林 裕倫	林 裕倫	林 裕倫	林 裕倫
	肝疾患センター 内科 外科	一 一	佐々木 雅人	一	林田 信太郎	佐々木 雅人
整形外科・ 脊椎センター	高木 寛 (脊椎外科) 土田 徹 (手外科)	宮崎 真一 (関節外科) 池田 天史 (脊椎外科)	川添 泰弘 (脊椎外科) 吳屋 亮太	武藤 和彦 (脊椎外科) 磯本 宏信	池田 天史 (脊椎外科) 土田 天史 (手外科)	高木 寛
	吳屋 亮太	磯本 宏信	磯本 宏信	一	田上 慧	担当医
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
脳神経外科	植田 裕 / 竹島裕貴	一	植田 裕 / 竹島裕貴	一	植田 裕 / 竹島裕貴	一
	脳ドック	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
形成外科	小倉 猛	一	小倉 猛	坂本 佳奈(9:30~)	黒川 正人	一
	皮膚科	城野 剛充	城野 剛充	一	城野 剛充	東海 堅也
泌尿器科	東海 堅也	押川 由佳	一	押川 由佳	押川 由佳	一
	宮本 豊	一	宮本 豊	眞鍋笙之介	富永成一郎	一
産婦人科	一般外来 産後ケア外来(要予約)	森山 伸吾	森山 伸吾	福松 之敦	森山 伸吾	森山 伸吾
	午後	午後	午後	午後	午後	午後
眼科	午前	吉積 華子	吉積 華子	吉積 華子	吉積 華子	吉積 華子
	午後	手術	特殊処置	特殊処置	手術	特殊処置
耳鼻咽喉科	増田 聖子	増田 聖子	宮本 茂亮	増田 聖子	増田 聖子	担当医
	宮本 茂亮	有馬 亮平	有馬 亮平	宮本 茂亮	一	一
リハビリテーション科	松村 直樹	松村 直樹	松村 直樹	松村 直樹	松村 直樹	松村 直樹
	一般外来	赤木 涼	外村 政道	横田 康宏	赤木 涼	荒木 裕至
放射線科	特殊外来	一	村上 龍次(要予約)	一	I VR外来(午後) 田村 吉高(要予約)	放射線治療外来(午後) 山田 茂雄(要予約)
	麻酔科(術前外来)	成松 紀子	成松 紀子	成松 紀子	成松 紀子	成松 紀子
緩和ケア外来(14:00~17:00)	一	一	一	伊藤 清隆(要予約)	一	本荘 莊介
	精神科(リエゾン)	大内 清(隔週)	一	加治屋 智子	一	本荘 莊介
歯科口腔外科	中元雅史 / 香西良亮	中元雅史 / 香西良亮	中元雅史 / 香西良亮	中元雅史 / 香西良亮	中元雅史 / 香西良亮	中元雅史 / 香西良亮
	救急科	飯坂 正義	飯坂 正義	飯坂正義 / 田中拓道	飯坂 正義	飯坂 正義

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670 独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院 院長 松岡 雅雄

(外来受付時間) 平日 午前8:15~午後11:00

(急诊はこの限りではありません)

電話 0965-33-4151 (代表) ※24時間対応

FAX 0965-32-4405 (代表) ※午前8:15 ~ 午後5:00

FAX 0965-34-5799 (地域連携室、救急、時間外受付)

ホームページ
外来診療担当医表



Kumamoto Johas

独立行政法人 労働者健康安全機構
熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式



インスタグラム
熊本労災病院公式

<https://www.kumamotoh.johas.go.jp>